



※学校だよりのタイトル『羽ばたく』は、甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた、舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」なって欲しいとの願いをこめてタイトルとしました。

全国学力・学習状況調査の分析結果の概要

今回の学校だよりは、5月に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要についての特集号です。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様、地域の皆様にお知らせします。本調査に参加した6年生保護者には、個別懇談の折に個人票をもとに課題等についてご説明する予定です。

1. 調査の内容について

(1) 実施日 令和3年5月27日(木)

(2) 調査内容

実施学年 第6学年

【教科に関する調査】

※出題範囲は、5年生までの学習内容

- ・国語「知識」「活用」に関する問題
- ・算数「知識」「活用」に関する問題

出題内容

- ◇身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ◇知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等に関わる内容。

【生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査】

- ◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2. 本校の結果概要について

- 国語・算数とも全国平均と比べて5ポイント以上上回っており、学習の状況はおおむね良好であると言える。
- 学習が苦手な児童、及び、無回答が少ないのは、これまでの丁寧な指導が大きく影響していると考えられる。
- 5年生の1学期、学校はコロナで休校したが、その間の学習やそれ以降の指導により学力の面で休校の影響は表れていないと考える。
- 学力のばらつきは、全国と比較して同程度、同程度より小さいと考えられるが、両教科とも苦手な子が存在することから題意のポイントを捉え、データを活用し、創造的・論理的に考えるよう思考力・判断力・表現力を養う指導をしていく必要がある。
- コロナ禍は、児童の生活に影響を与えたが、学校生活・学習へ向かう意識・家庭学習・地域連携について児童は前向きであり、引き続き学校・家庭・地域が連携し児童を支援していく必要がある。

国語の概要

- ◇ 国語が苦手な児童は少なく、8割近くの児童が全国平均正答率の9問以上となっている。
- ◇ 標準偏差は、全国3.1 本校2.1で、本校の学力のばらつきは小さく、学力が身に付いている児童が多い。

算数の概要

- ◇ 国語ほどではないが、算数も苦手な児童が少なく、8割近くの児童が全国平均正答率の11問以上となっている。
- ◇ 標準偏差は、全国3.5 本校3.2と、学力のばらつきは同程度で、正答数の低い割合は、全国と比べて8ポイントほど少なく、正答数の高い割合は16ポイントほど多い。

3. 教科別の結果についての考察と今後の指導について

国語の分析

(ア) 学習指導要領の領域・内容などから

- 全体的にどの領域も良好な学習ぶりであり、学んだことが定着している。
- 学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の全ての領域で全国平均より正答率が高く、特に「書くこと」は10ポイント以上よかった。
- つみ重ねる 「つみ」を漢字【積み】で書く問題だけ全国平均を下回っていた。漢字は、3問あり、平均すると全国平均+4.4ポイントで、漢字の習得も問題は少ない。
- 語句の使い方、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係など3問あり、平均すると全国平均+6.7ポイントであり、言葉の特徴や使い方も身に付いている。
- 無回答は、記述式で1名、漢字で1名のみであり、粘り強く問題に取り組むことができている。

(イ) 問題の解答から見える実態

- ①スピーチの構成の説明（目的に応じ、話の内容が明確になるようなスピーチの構成）、②「面ファスナーの文章が、何についてどのように書かれているのか。」といった文章全体の構成と中心となる内容を捉えること、③文章の構成について 自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開が分かることの理解が十分であった。（+10ポイント以上）説明する行為の知識の枠組みが十分できていると判断できる。文章の構成とその役割を理解し、文章全体をとらえ、内容とともに働きについても理解し、話したり読んだり書いたりすることができている。
- 記述式は3問あり、意見とその理由を書く記述は、非常によくできていた。授業の中で、理由を明確にして自分の意見を表現することができていることがつながっていると思われる。残りの2問は、二つの条件のうち一つしか書けない間違いが多かった。全国平均とあまり変わらず、条件に沿って、伝わるように書く力をつけることが課題である。

(ウ) これからの指導について

- 「メストラルは、何をヒントにどのような仕組みの面ファスナーを作り出したのか。」を文章や図を参考に50字から80字でまとめる問題は、全国平均を上回っているものの4割を切る正答率であった。
- 「ヒントになったことは書けたが、面ファスナーのくつつく仕組みが書けなかった。」ことによる誤答が一番多かった。普段の学習でも二つの条件を踏まえた文章を書く、条件が違う場合の文章の違いを検討するなどの学習を意図的に仕組むことが大切である。
- 書けなかった条件は「図で説明されたことを適切な言葉で表現すること。」が必要であった。図や絵を適切な文章で表す学習も有効である。
- 「メストラルは、何をヒントに…」で聞かれている問題に対して「メストラル」を主語にして答えるなど、答え方についても学ばせる必要がある。
- 「面ファスナーのよさを取り上げて、宇宙ステーションの中でどのように使われているか。」を資料から言葉を取り上げ50字から70字でまとめる問題は、全国平均を上回っているが3割程度の正答率であった。
- 宇宙ステーションの中での使われ方は、事実を書くだけなのでできていたが、面ファスナーのよさが何を表しているのかが分からない誤答が多かった。「よさが何を表すのか。」「適さない使い方はあるか。」「なぜ、全て固定するのか。」といった文章の内容を新たな視点で検討するという論理的な思考を指導していきたい。

算数の分析

(ア) 学習指導要領の領域・内容などから

- 学習指導要領の領域「数と計算」「図形」は全国平均より+10ポイント%以上正答率が高かった。
- 「測定」「変化と関係」も全国平均を上回った。
- 「データの活用」は、全国平均と同じ程度であった。
- 文章題を式で表したり、計算をしたりすることが得意である。
- 無回答は2名が1問にとどまり、粘り強く問題に取り組んだ。
- 「知識・理解」は全国平均をやや上回っており、「思考・判断・表現」は全国平均を上回っている。

(イ) 問題の解答から見える実態

- 以下の領域の問題は全国平均を大きく上回り、十分理解していると考えられる。
 - ・ 数と計算 (図の中に示された二つの道のりの差を求める問題、商が1より小さくなる割り算、30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを他の数値による説明を適用して書く問題。)

- ・図形（②直角三角形の面積、二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形面積）
- ・変化と関係（③速さと道のりを基に、時間を求める式に表すこと。④道のりと時間の関係から決まった距離を歩く時間を求めること。）
- 記述式は4問であった。3問は、大きく全国平均を上回った。記述式で自分の考えも書いている。日常の授業の中で、「自分の考えを説明する。」「自分の考えの理由を書く。」「友達考えに従って説明したり、問題を解いたりする。」ことができている。
- データの処理がやや苦手であり、「二元表」の理解に課題がある。
 - ・「図書室で本を借りていない理由に5年と6年で違いがあるか。」という問題があった。
 - a)「5年と6年で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが一番大きい項目はどれか。また、5年と6年の割合はそれぞれ何%か。」を記述で答える課題について、「あてはまる」割合の違いではなく、割合が5、6年とも一番多い「地域の図書館で借りている」を選んでしまった児童が25%いた。
 - b)図書室でもっと本を借りてほしいため5、6年生が読みたい本と多くの5、6年生に読まれている本を調べるためのデータは何か、という問題の解答に「借りている曜日」のデータを集めるという児童が16%いた。

(ウ) これからの指導について

- 基礎・基本の力があり、説明することが得意であり、これまでの指導が生きている。同様に学習を進めることが大切である。
- データを活用する学習に慣れていないことが、結果に表れていた。二元表の復習を行うだけでなく、算数以外の教科でも表やグラフを読み取ること・作成することなどを大切に指導したい。また、総合的な学習の時間で自分の調べたいことや課題を解決するためにアンケートを作り、表やグラフにまとめ、データを読み取るなどの指導を行いたい。
- 問題の理解が不十分な児童がいる。問題が求めていることをはっきりさせて解く指導を日常的に行いたい。
- 時計の見方「午後1時35分から50分後の時刻」を間違えた児童が数名いる。個別の指導を行いたい。

4. 生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査結果から見られる特徴

児童質問紙の分析

学校生活について

◎学校生活の中で友達との良好な関係を大切に思うことが楽しい学校生活につながっていると考える。また、コロナ禍であったがその影響が少なく、充実した学校生活を送れていることが分かった。

－回答状況－

- 本校児童6割以上の児童が「学校が楽しい。」と回答しており、全国平均より高い。
- 「友達と協力するのが楽しい。」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めているか。」などが全国平均を大きく上回った。

生活面について

◎コロナの影響、休校の影響は、先が見えない状況を反映しているのか生活面に影響があったと思われる。また、家庭学習、読書、新聞を読むことが、学力・学習状況調査の結果とも結びついていると考えられる。

－回答状況－

- 「将来の夢や目標を持っていますか。」全国平均は60%で前回より6ポイント下がった。本校でも同様で低下している。
- 「休校中、勉強についての不安を感じたか。」全国比プラス10ポイントほど高く、「休校中、計画的に学習は進められた。」ものの（全国比+9ポイント）「休校中規則正しい生活は送れなかった。」（全国比-2ポイント）との回答であった。
- 家庭での学習時間を3時間以上とする児童の割合、2時間以上とする児童の割合は変わらないが、1時間以上学習している児童は、全国平均よりも高い傾向にある。
- 30分以上読書している児童、新聞を週1-3回以上読んでいる児童も、全国平均より上回っている。

学習に向かう意識について

- ◎ 普段の授業から意欲的に取り組んでいることが分かる。発表・表現の工夫、課題解決への取り組み方、思考・判断などを意識している。
- ◎ 国語・算数・英語とも意欲的で成果につながっていると自己評価している。
- ◎ 学んだことを理解していると自己評価していることも分かる。

－回答状況－

- 「話し合い活動で内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている。」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した。」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。」「5年までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたか。」などの項目は全国平均を大きく上回っていた。
- 国語の授業は好きで、大切だと思い、内容もよく分かっている。
- 算数に関しては、「好き」「大切」は、全国とあまり変わらないが、「よく分かる。」「解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか。」は、大きく上回った。
- 「英語の勉強は好き」「英語で自分の考えや気持ちを伝えあうことができたか。」も全国平均を大きく上回っている。

地域との関わりについて

- ◎ コロナ禍で地域の行事は減っているが、本校の児童は地域とのつながりが強いことが分かる。

－回答状況－

- 「地域の行事に参加していますか。」全国27%で10ポイント下がったが、本校は43%が「参加している。」と回答している。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」全国より高い値を示している。

5. 今後の学校経営の方向性

○ 基本的生活習慣等の育成を図ります

今後もあいさつ運動や無言清掃の推進などを通して、学習の基となる基本的生活習慣の定着を図ります。家庭との連携をさらに深め、基本的生活習慣の確立や家庭学習の習慣化を図ります。特に、西中学校区3校連携の中で、長時間のテレビ視聴やゲーム、スマートフォン、タブレット等の長時間使用による悪影響を排し、生活リズムの確立を図る取組を行います。

また、コロナ禍ではありますが、可能な限り家庭・地域との連携を図りつつ、子ども達の危険予知能力・危機回避能力の育成、ふるさとを愛する心の育成をめざします。

○ 「思い遣る心」醸成し、より良い学級集団づくりを進めます

より良い授業を行うためには、民主的で人間関係が安定した学級集団が不可欠です。子どもたちが学級のきまりを守り、「思い遣る心」を持って互いに助け合う学級づくりを進めます。学校行事や学級学年の行事や取り組みを通して、個人としても学級・学年集団としても成長できるよう、自己決定の場を大切にしながら指導を行います。

○ 基礎・基本のより一層の定着を図ります

授業中に計算練習等の繰り返し学習や習ったことの復習を行い、基礎・基本のより一層の定着を図ります。「家庭学習の手引き」を各家庭に配布しましたが、家庭学習でも、宿題はもちろん、自主学習ノートや市販のドリル等の自主学習に積極的に取り組めるよう指導し、基礎・基本の確実な定着と自らの疑問を解決できる力の育成をめざします。

○ 「やまなしスタンダード」を推進し、「甲府スタイル」を基にした授業改善を図ります

「甲府の子どもの教育総合推進校」として、子ども達が、自分の見方・考え方を「広め・深め・つなぐ」学びを進めるために、見通しと振り返り、動き出したくなる課題提示の更なる実践を通して、子どもたちの思考力や判断力、表現力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業研究を行い、子ども達の資質・能力を育成します。